日刊工業新聞

年月日	19	11	14	ページ	15	NO.	

バイオ創薬

レーザー光技術で支援

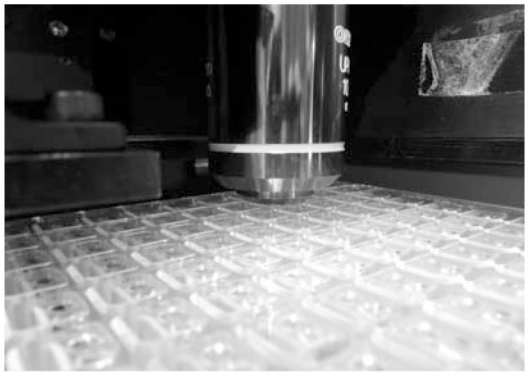
難結晶化サンプル拡大

創晶、アクセリードと協業

創晶（大阪府吹田市、安達宏昭社長、06・6877・5659）は、創薬ソリューションサービスなどを手がけるアクセリードドラッグディスカバリーパートナーズ（神奈川県藤沢市）と協業する。今後、ペプチドや核酸、抗体などのバイオ創薬の研究開発で難結晶化サンプルの需要拡大が見込まれる。創晶が強みとするレーザー光による結晶化との技術融合で、創薬支援の強化につなげる。

創薬研究では結晶構造解析や候補化合物の最適な合成法の確立が不可欠。創晶はレーザー光を用いた強制的な核発生による結晶化を得意とする。

従来は対応が難しかった高活性化化合物や高難度有機合成反応の受託について、創薬研究をプロジェクト単位で受託する総合型創薬研究支援（IDD）サービスを展開するアクセリードの施設・設備を使うことで可能になる。



創晶はレーザー光による結晶化が強み

今後、アクセリードが国内外で受託するIDDサービスで難結晶化化合物、標的たんぱく質や化合物ーたんぱく質複合体の結晶化を創晶が担う。今回はアクセリードから結晶化技術を持つ創晶に提案し、連携が決まった。

2005年設立の大阪大学発スタートアップの創晶は結晶化サンプルの受託に特化した事業を展開する。アクセリードとの協業でこれまで未着手の海外市場の開拓を狙う。

アクセリードは武田薬品工業の創薬研究部門の一部事業を承継し、17年に事業開始した。非臨床創薬研究で初期の探索研究から候補化合物の最適化、臨床開発への橋渡しなど、ニーズに合わせたワンストップサービスを提供している。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社